

評価項目	重点目標	取組の内容と評価の観点（3.5ポイント以上・90%以上をA、2.5ポイント未満・70%未満をC）			中間評価（1月16日時点）		◎学校関係者評価	評価	期末評価	
		具体的な方策（取組）	★取組指標（4段階教員平均・前期比較）	★成果指標（肯定的評価・前期比較）	○成果と▽課題	●▼期末への方策等			○成果と▽課題	●▼次年度への方策等
確かな学力の向上	児童が、問いやめあてを主体的に追究でき、分かりやすい授業の実現を図り、学力を向上させる。 【施策1】	1 教員一人一人が学力向上マイプランを作成し、自分タイム・みんなタイム・振り返りタイムで授業を構造化する四谷スタイルの分かりやすい授業を行う。 【学力向上委員会】	教員の取組指標① R3：平均3.7：A 4マイプランに基づいた授業公開を2回以上行い他学級の参観を行った。 3マイプランに基づいた授業公開を2回以上行い他学級の参観を行わなかった。 2マイプランに基づいた授業公開を1回以上行ったが他学級の参観を行わなかった。 1上記以下	児童アンケート⑨ R3：93.7%：A 先生の授業は分かりやすいと思う。  保護者アンケート⑦ R3：89.3%↑ 四谷小学校の先生は、分かりやすい授業を行っていると思う。	○各教員が学力向上マイプランを作成して取り組んでいるため、児童は授業が充実していると感じている。 ▽コロナ禍の影響により、保護者への授業参観が難しく、授業の様子が伝わりにくい。	▼コロナの感染状況の影響により、授業参観を行う機会がなくなった。後期は感染対策を行った上で、授業参観を工夫して実施する。	・教員が、タブレットを活用して、分散登校期間中にオンライン授業によく対応をしていた。保護者としては、その対応がありがたかった。	A	○学力向上マイプランに基づき、継続的に自分タイム・みんなタイム・振り返りタイムの形で社会科・生活科だけではなく、全ての教科で授業改善に努めることができた。	●みんなタイムでは、児童の話し合いをどのように持たせるのかを教師がしっかりと捉えておくことが必要である。
		2 学習のねらいの実現に向けて教師と児童がGIGAタブレットを効果的に活用した授業を行う。 【情報教育推進委員会】	教員の取組指標② R3：平均3.5A 4授業のねらいに応じてタブレットを毎日3回以上教師も児童も教室等で活用した。 3授業のねらいに応じてタブレットを毎日教師も児童も教室等で活用した。 2授業のねらいに応じてタブレットを教師は毎日活用したが児童は毎日活用しなかった。 1上記以下	児童アンケート⑥ R3：88.7% 実物投影機やパソコンなどを使った授業は分かりやすく楽しい。  児童アンケート⑦ R3：85.5% タブレットPCなどを使って、「調べる」「まとめる」「伝え合う」授業が好きだ。	○各教員がICTを積極的に活用し、視覚的に授業の中で児童の知識の定着や思考を促すことができている。 ▽タブレットは便利だが、うまく個人活用できない児童もいる。	●各教員が情報部を通じて活用事例集を作成し、教員間で活用方法を広げることによって、さらなるスキル向上に努める。 ▼児童のタブレット活用スキル向上の教員研修を計画的に行っていく。	・児童も、タブレットを授業の中で上手く活用している。		○教師が行った実践を活用事例集にまとめた。そうすることで、校内の教員に活用方法を広げることができ、スキルの向上に努めることができた。	●児童がタブレット端末を活用する機会が増え、情報活用能力は向上したものの、本当に、タブレット端末を活用して調べる活動が児童にとって有効なものなのかを吟味する必要がある。
		3 朝学習の時間やモジュール学習、家庭学習などでGIGAタブレットのドリルパークを活用して基礎的な内容の定着を図る。 【教務部】	教員の取組指標③ R3：平均3.7：A 4以下に加え、毎日のタブレット含めた家庭学習を学年×10分程度出して取り組ませた。 3以下に加え朝学習やモジュールの時間にタブレットなどで基礎的な内容の定着を行った。 2朝学習やモジュールの時間に基礎的な内容の定着を行った。 1上記以下	保護者アンケート⑧ R3：88.1%↑ 四谷小学校の先生は、子供たちに基礎・基本の学力をつける指導に力を入れている。	○児童は、デジタルドリルを活用して漢字や計算の反復練習に取り組んでいる。 ▽保護者の中には、タブレットを活用した家庭学習が見えないので不安感がある。	●各担任が児童の漢字や計算についての進捗状況を把握しやすい。 ▼漢字については、タブレットと漢字ノートをしっかり併用して定着を図り、保護者の不安への解消に努める。	○デジタルドリルで漢字や計算の反復練習を行うことは、児童の興味・関心も高まり、意欲的に学習に取り組む児童が増えた。		●漢字に関しては、定着度が低い傾向が見られる。今後は、タブレット端末による学習とノートによる学習を併用しながら、児童の学力向上に努める必要がある。	
豊かな心の育成	新型コロナウイルス感染症防止、人権意識や規範意識向上に取り組むとともに、特別支援教育への理解伸長と具体的な支援や支援体制の充実を目指し、児童が安心して生活できる環境の実現を図る。 【施策2】 【施策8】	1 文部科学省のガイドラインに基づいた感染症防止対策を明文化して徹底し、保護者にも周知し協力を求める。 【生活指導部】	教員の取組指標④ R3：平均3.7：A 4学校だより、学年だより、保健だよりなどで感染防止の周知・啓発をした。 3学校作成の感染マニュアルに基づいて対応するとともに、定期的に児童への指導を行った。 2学校作成の感染マニュアルに基づいて教師が対応を行った。 1上記以下	保護者アンケート⑩ R3：85.1%↑ 四谷小学校の感染対策は十分に行われていたと思う。	○感染対策マニュアルに基づき、保護者には学校便りや保護者会、個人面談等で啓発と協力を発信した。 ○感染対策を徹底して、コロナ禍の状況の中で、学芸祭や運動会を実施した。	●感染対策による学校行事の変更などは、PTA役員の方と連携したが、保護者に早目に発信していく。 ▼後期も継続して、感染症対策を行う。さらに、ホームページなども活用し、学校が行っている対策を発信していく。	・欠席連絡をホームページ上で行えるようになったことで、学校が感染対策に熱心に取り組んでいる様子が、多くの保護者の方に伝わった。	A	○感染症拡大の防止策について、教育委員会の方針に基づいた対応を実施するとともに、家庭と連携し取り組むことができた。	●新たに、感染症拡大の防止に向けて、基本的な対応方針は継続して実施する。また、状況によっては、緊急メールやホームページを活用して感染症対策の必要性を保護者に迅速に呼びかけていく必要がある。
		2 長期休業明けの基本的な生活習慣の改善を促す取組を行うとともに、いじめアンケートやいじめ防止授業を行い未然防止に努める。 【生活指導部】	教員の取組指標⑤ R3：平均3.4 4下記以外に学級等で工夫した取組を行った。 3毎日の挨拶指導と夏休み・冬休み明けの生活習慣改善の指導を行い、いじめアンケートにより解消に向けた取組を行った。 2毎日の挨拶指導と夏休み・冬休み明けの生活習慣改善の指導、または、いじめアンケートにより解消に向けた取組のどちらか一方だけを行った。 1上記以下	児童アンケート⑮ R3：96.1%↑：A いじめはイヤなことだと思う。助けられないのもイヤと思う。 児童アンケート⑯ R3：83.1% いじめなどの問題があるときには、すぐに先生に相談することができる。  保護者アンケート⑤ R3：61.9%↑ 四谷小の子どもたちは、あいさつの習慣が身に付いている。 保護者アンケート⑭ R3：94.0%↑：A 子どもにいじめやいじめの疑いがある時には、学校に相談することができる。	○hyper-QUを活用し、各担任が児童の学級での実態の把握に努めることができた。 ▽いじめの早期発見については、課題となった。 ▽前年度よりもあいさつは、大きな声になっているが、保護者も児童もアンケート結果は低い状況である。	●hyper-QUの結果を踏まえた取組やいじめ防止プログラムの確実な実施を行う。 ▼いじめについては、早期に対応し、解決できるように、組織的な解決を図れるように徹底する。 ▼あいさつ運動は、感染状況を踏まえながら実施するが、週目標で1週目に、あいさつを意識できるような目標を設定する。	・学校規模が大きい割に、クラスターの発生や学級閉鎖がないことは、学校で感染対策をしっかり行っているからだと思った。  ・あいさつ運動は、感染症の防止のために、1年間活動できなかった。		○全校児童にふれあいアンケートを実施し、配慮が必要な児童への聞き取りを行い、全教員がいじめ防止・解決への対応を行った。 ▽いじめについては、ふれあいアンケートやhyper-QUを活用して情報収集をしたが、未然に防ぐことが難しいケースがあった。 ▽あいさつ習慣の評価は昨年度比で増加しているが、より向上させる必要がある。	○ふれあい月間におけるhyper-QUやふれあいアンケートの取り組みを中心に、心の不安等に防止をしながらいじめ防止の取り組みをするとともに、児童が教員に不安なことを相談できるような環境を整える。 ▼あいさつ習慣での標語の取組に成果が見られた。児童のあいさつの様子を保護者に熱心に伝える。
		3 対象となる児童の合理的配慮を検討して個別指導計画を作成・活用したり、校内委員会を定期的に開催して具体的な組織的な支援の充実を実現したりする。 【特別支援委員会】	教員の取組指標⑥ R3：平均3.6：A 4学級生活支援シートと個別指導計画の作成・活用、学年や専科との情報共有、学級での適切な支援を行った。 3学級生活支援シートと個別指導計画の作成・活用、学級での適切な支援を行った。 2学級生活支援シートと個別指導計画の作成を行って支援をした。 1上記以下	教員の成果指標④ 4全ての対象児童の学級生活適応が改善。 3概ね対象児童の学級生活適応が改善。 2適応改善が見られない対象児童が複数。 1上記以下 児童アンケート① R3：85.4%↑ 学校へ行くのは楽しい。 保護者アンケート② R3：94.4%↑：A 四谷小の子どもたちは仲良く生活しており、学校の様子は楽しそうである。	○児童は、概ね学校に行くことを楽しく捉えている。 ○前期に必要な個別指導計画は作成できた。 ▽低学年に支援会議や不登校傾向になる児童が増えているので、未然防止の取組を検討していく。	●後期の個別指導計画について、まなびの先生と連携して改善を確実に行う。 ▼特別支援校内委員会に加えて、不登校支援委員会を今後も継続的、定期的に行い、支援を担任のみではなく、組織的にやり、解決に努める。	○校内委員会を定期的に開催したことで、教職員全体で共通理解を図ることができた。		●校内委員会や生活指導全体会など、検討事項を整理、精査しながら、内容が重複しないように、令和4年度の会議の設定をしっかりと行う。	

体力の向上	<p>オリンピック開催に向け、感染症防止対策を踏まえて、体育授業の実施や運動の日常化を図り、体力を向上させる。 【施策2】</p>	<p>1 トップアスリートを招聘し、運動会や体育集会の実施方法を見直し、感染症対策を適切に講じた体力向上の取組を実施する。 【体力向上委員会】</p> <p>2 新宿ギネスやコーディネーショントレーニングなどに取り組む時間を保証し、体力の維持向上に努める。 【体力向上委員会】</p>	<p>教員の取組指標⑦ R3：平均3.3</p> <p>4 下記以外に工夫した体育の授業を実施した。 3 体育の学習内容を履修させるとともに、表現運動の動画配信や学年運動集会を実施した。 2 感染防止に取り組み、水泳以外の体育の学習内容を履修させることができた。 1 上記以下</p>	<p>体力テストの結果</p> <p>○概ね、区の平均・全国の平均と同様である。どの学年も、測定種目の中では、「ソフトボール投げ」や「20mシャトルラン」で低い傾向があるものの、男女別の延べ種目数96種目中、64種目が都平均を上回った。</p>	<p>○年間指導計画を見直し、体育の授業や運動会の表現を通して、運動量の確保をした。 ▽感染状況により、アスリートを招集した授業ができなかった。</p>	<p>●PTAとの連携を図り、感染状況を鑑み、保護者が参観できる運動会を実施できた。 ▼アスリートを招集した授業実施に向けて計画を見直す。</p>	<p>・コロナ禍でも、学校は工夫しながら児童に、スポーツの素晴らしさを実感させることができるように、ゲストティーチャーを招くなど、できる限りの工夫をしている。 ・学校の取組が都に認められて、体力向上優秀校に選ばれてよかった。</p>	A	<p>○PTAと連携をし、保護者が参観できる運動会を実施できた。 ○コロナの影響を心配したが、体力テストの結果は、都平均を上回るものが増加した。</p>	<p>●児童数の増加もあるため、感染状況を鑑みながら、運動会の開催方法を検討する必要がある。 ●トップアスリートの招聘は継続する。</p>
	<p>学校の特色ある活動である「天童市干布小学校との姉妹校交流」「金管バンドの活動」「四谷子ども園との交流」を継続する。 【施策4】</p>	<p>1「天童市干布小学校との姉妹校交流」では作品や動画、GIGAタブレットによるオンライン交流を取り入れた交流活動を全学年で進める。 【天童委員会】</p> <p>2「四谷子ども園との交流」は、交流計画を見直し、感染症防止対策を行った上で、全学年で1回以上交流の機会がもてるように努める。 【教務・保幼子小交流】</p>	<p>教員の取組指標⑨ R3：平均3.0</p> <p>4 山形県や天童市、干布について学ぶ機会を設け作品を送るなどの交流を2回以上行った。 3 山形県や天童市、干布について学ぶ機会を設け、作品を送るなどの交流を行った。 2 干布小に作品を送るなどの交流を行った。 1 上記以下</p>	<p>各学年の交流状況</p> <p>6年 オンライン交流(四谷の特色)・芋煮会 5年 運動会DVDか自己紹介カード 4年 東京都ガイドマップ 3年 新宿区ガイドマップ、自己紹介カード 花笠音頭(オンライン) 2年 タブレットを使った四谷の紹介 1年 生活科活動写真交流</p>	<p>▽6年生の天童との夏季交歓会(3泊4日)は中止となった。 ○コロナ禍に対応し、オンラインの交流や作品の交流の実施をしたり、計画をしたりしている。</p>	<p>●交歓会はできなかったものの、高学年を中心に、教員が熱心にオンラインで交流をした。 ▼天童との交流の計画はしているが、後期以降の実施を考えている。</p>	<p>・直接交流は難しかったことは仕方がないが、オンラインでの交流ができたことは、とてもよい結果である。</p>		B	<p>○児童のタブレット端末を効果的に活用し、オンラインによる間接交流を行うことができた。</p>
<p>地域協働学校として、家庭や地域と連携した取組や地域人材活用を充実させることで地域とのつながりを深める。 【施策4】</p>	<p>1 感染症防止に配慮しながら、スクールコーディネーターやPTAと連携して、読書支援、環境美化、あいさつ運動、天童交歓会運営、金管バンド支援、安全見守り活動の支援を受けたり、外部人材を活用したりして教育活動を進める。 【副校長・学年主任】</p>	<p>教員の取組指標⑩ R3：平均3.3</p> <p>4 学級や専科で2回以上の教育活動の支援を受けることができた。 3 学級や専科で1回は教育活動の支援を受けることができた。 2 間接的にゲストティーチャーや教材などの支援を受けることができた。 1 上記以下</p>	<p>児童アンケート⑩ R3：80.0%↑</p> <p>学校に関わる地域の人(スマイルクラブのみなさん)から様々なことを教わったり、一緒に活動したりしことがある。</p> <p>保護者アンケート⑩ R3：74.4%↑</p> <p>学校は、子どもが学校に関わる地域の人(スマイルクラブのみなさん)と一緒に活動する機会をよくついていると思う。</p>	<p>○昨年度より、実施可能な限り、スマイルクラブ(地域支援者)による教育支援を実施しているため児童の肯定的な評価は高まった。 ▽保護者の方に、スマイルクラブの活動の様子が伝わっていない状況である。</p>	<p>●児童がスマイルクラブの方との交流により、地域の方との交流活動の楽しさやよさを実感しているため、継続して教員がS、Cとさらなる連携を図り、活動の充実を努める。 ▼ホームページや学校便り等を通して、各学年の活動の様子をしっかりと伝えていく。</p>	<p>・活動の計画は、昨年度の反省を踏まえ、しっかりと先生方と連携して行うことができた。実施できなかったこともあがあるが、できる限りの活動は行うことができた。</p>	A	<p>○スマイルクラブの活動は、できる限り、活動を行った。また、事務局を中心に、十分に必要な支援を受け、児童の教育活動への充実が図られた。 ▽スマイルクラブの活動のよさを、保護者にアピールする機会が少なかった。</p>		<p>●スマイルクラブのよさを教員がさらに認識し、より連携を深めてさらなる教育活動の充実や向上につなげることができるように働きかけていく。 ▼スマイルクラブの活動のよさを、ホームページや学校便り等で、しっかりとアピールしていく。</p>
<p>次年度に延期された東京オリンピック・パラリンピックに向けた教育を推進する。 【施策2】</p>	<p>1 オリンピック・パラリンピック教育年間指導計画に即して、全学年で各種冊子やDVDなどを効果的に活用した実践を行うとともに、トップアスリートと触れ合える機会を実現する。 【体力向上・オリパラ担当】</p>	<p>教員の取組指標⑫ R3：平均3.0</p> <p>4 年間3 5時間のオリ・パラ教育年間計画を概ね行い、年間2回以上GTと触れ合った。 3 年間3 5時間のオリ・パラ教育年間計画を概ね行い、1回はGTと触れ合った。 2 年間3 5時間のオリ・パラ教育年間計画を概ね行った。 1 上記以下</p>	<p>児童アンケート⑫ R3：86.3%↑</p> <p>その道の専門家(警察・消防・水道・商店・スポーツ選手等)から学ぶ学習に取り組んだ。</p>	<p>▽コロナ禍の影響で、オリ・パラ教育を各学年で前年度見直しをしたものの、計画的に進められなかった。 ▽前期はコロナ禍のため、トップアスリートの招聘ができなかった。</p>	<p>●高学年は、パラリンピックの観戦は振り返りの時間を設け、パリの学校との手紙等で交流を図った。</p>	<p>・感染対策をしっかりと行いながら、4年生以上がパラリンピックを観戦できたことは、児童にとって、とてもよい機会となったと思う。</p>		A	<p>○4年生以上でパラリンピックを観戦することができ、そのよさをフランスの姉妹校へ手紙等を送付して交流を図った。 ○多くの学年で、トップアスリートを招聘し、学ぶ機会を児童が得ることができた。</p>	<p>●令和4年度も、パリオリンピック・パラリンピックに向けて、フランスの姉妹校交流を大切にし、日本の伝統文化や東京パラリンピックで学んだこと等を発信しながら、交流を深めるようにする。</p>
<p>令和5年度の全国大会に向けて、社会科を中心とした実践研究を通して、主体的・対話的で深い学びを推進する。 【施策1】</p>	<p>1 年間6本の授業実践を通して社会科の授業づくりの方策や評価方法について研究し、各研究授業は区や都小社研に紹介し、研究成果を広める。 【学力向上委員会】</p>	<p>教員の取組指標⑬ R3：平均3.7:A</p> <p>4 以下に加えて主体的に学習に取り組む態度の育成を図る工夫した授業に取り組んだ。 3 以下に加えて四谷スタイルの授業づくりに取り組んだ。 2 生活科での体験的活動や社会科での問題解決的な学習を行い、振り返りカードや学び方カードを継続的に活用して見通しと振り返る力を高める。 1 上記以下</p>	<p>社会科児童アンケートの回答(全国平均ポイントの差)</p> <p>① 学習問題を決めてその解決のために調べたり考えたりすることができる。 4年19.8P 5年14.2P ↑6年15.1P ↑ A</p> <p>② 自分の考えを資料などを使って説明することができる。 4年16.6P ↑5年11.4P 6年12.6P A</p> <p>③ 調べたことをもとに自分の考えを書くことができる。 4年13.2P ↑5年10.6P 6年10.2P A</p> <p>④ 学習問題やテーマを決めて討論(話し合い)することが好きだ。 4年15.4P 5年17.4P 6年20.0P A</p>	<p>○振り返りカードや学び方カードを活用し、主体的に児童が自らの学習状況を把握し、調整して学べる力を育むことができつつある。 ▽コロナ禍の影響で、グループ活動などに制限があり、対話的な学びが難しかった。</p>	<p>●都小社研との連携を図りながら、研究授業を予定通り行い、児童の主体的に学んでいる姿を検証し、さらなる社会科の授業の発展に尽力する。 ▼コロナ禍の状況を踏まえて、グループ活動を工夫して行うようにする。</p>	<p>○11月に都小社研との連携を図り、授業公開や地区委員会を開催し、研究の成果を広めることができた。</p>	<p>●研究成果を学校全体で共有し、授業改善に生かしていく。さらに、令和5年度の全小社研の全国大会に向けて、都小社の各学年部会と連携しながら授業づくりに励むようにし、11月のプレ発表会での公開授業を通して、授業力の向上を図る。</p>			